

JAバンク鳥取における地域密着型金融の取組状況(平成 28 年度)

JAバンク鳥取（鳥取県下 3JA と鳥取県信用農業協同組合連合会）では、農業と地域社会に貢献するため、平成 28～30 年度 JAバンク鳥取中期戦略に基づき地域密着型金融の推進に取り組んでおります。

平成 28 年度の地域密着型金融の取組状況について取りまとめましたので、ご報告いたします。

1 農山村等地域の活性化のための融資を始めとする支援

(JAバンク鳥取の農業メインバンク機能強化への取組み)

JAバンク鳥取は、地域における農業者との結び付きを強化し、地域を活性化するため、次の取組みを行っています。

(1) 農業融資商品の適切な提供・開発

JAバンク鳥取は、各種プロパー農業資金を提供するとともに、農業近代化資金等、制度資金の取扱いを通じ、農業者の農業経営と生活をサポートしています。

平成 29 年 3 月末時点の JAバンク鳥取の農業関係資金残高^(注1)は 14,932 百万円（うち農業経営向け貸付金 8,237 百万円）、日本政策金融公庫等の受託貸付金残高は 719 百万円です。

(注 1) 農業関係の貸出金とは、農業者および農業関連団体等に対する貸出金であり、農業生産・農業経営に必要な資金や農産物の生産・加工・流通に係る事業に必要な資金等が該当します。

【営農類型別農業資金残高】（単位：百万円）

営農類型	平成 29 年 3 月末現在
農業	8,237
穀作	1,075
野菜・園芸	1,180
果樹・樹園農業	551
工芸作物	83
養豚・肉牛・酪農	605
養鶏・鶏卵	53
養蚕	7
その他農業	4,683
農業関連団体等	6,695
合計	14,932

(注)

1 「その他農業」には、複合経営で主たる業種が明確に位置づけられない者および農業サービス業が含まれています。

2 「農業関連団体等」には、JA や全農とその子会社等が含まれています。

【資金種別別農業資金残高】 (単位：百万円)

種 類	平成29年3月末現在
プ ロ パ ー 資 金	12,342
農 業 制 度 資 金	2,590
(農 業 近 代 化 資 金)	(1,030)
(そ の 他 制 度 資 金)	(1,560)
合 計	14,932

(注)

- 1 プロパー資金とは、JAおよび当会原資の資金を融資しているもののうち、制度資金以外のものをいいます。
- 2 農業制度資金には、①地方公共団体が直接的または間接的に融資するもの、②地方公共団体が利子補給等を行うことでJAおよび当会が低利で融資するもの、③日本政策金融公庫が直接融資するものがあり、ここでは①の転貸資金と②を対象としています。
- 3 その他制度資金には、農業経営改善促進資金(スーパーS資金)や農業経営負担軽減支援資金などが該当します。

【農業資金の受託貸付金残高】 (単位：百万円)

受 託 先	平成29年3月末現在
日 本 政 策 金 融 公 庫 資 金	719

(注)

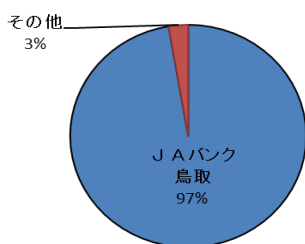
日本政策金融公庫資金は、農業(旧農林漁業金融公庫)にかかる資金をいいます。

JAバンク鳥取は主要な農業関係の制度資金である、農業近代化資金や日本政策金融公庫資金(公庫直貸除く)の取扱いにおいてトップシェアとなっています。

【鳥取県の農業近代化資金および公庫農業資金の取扱シェア】

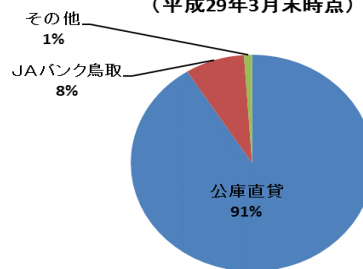
農業近代化資金取扱いシェア

(平成29年3月末時点)



公庫農業資金取扱いシェア

(平成29年3月末時点)



(2) 農業関連資金への利子助成および利子補給

JAバンクアグリ・エコサポート基金および農林中央金庫と連携し、厳しい経営環境に直面する多様な農業の担い手に対し、借入負担の軽減を図ることにより、農業経営の安定化・効率化を支援することを目的として、JA農機ハウスローン、スーパーS資金等の農業関連の融資に対して利子助成および利子補給を行っています。平成28年度は県内で76件の利子助成と386件の利子補給を行いました。

※JAバンクアグリ・エコサポート基金は、JAバンクの社会貢献活動の一環として、農業振興や環境保全に貢献する事業を展開するために、農林中央金庫の基金拠出によって平成19年10月に設立されました。

(3) 担い手のニーズに応えるための取組み

J Aバンク鳥取では、地域の農業者のニーズに応えるため、様々な取組みを行っております。

J Aでは、本支店の農業融資担当者が営農・経済部門等と連携しながら、農業融資に関する資金提案や経営相談対応等を実施しています。これを支える体制として豊富な農業金融知識をもった農業融資の実務リーダーである「担い手金融リーダー」を、平成 28 年度末時点で県内に 49 名配置しています。

J A系統独自の農業融資資格制度「J Aバンク農業金融プランナー」を導入しており、有資格者は平成 28 年度末時点で県内に 32 名誕生しています。農業融資の実務に即した資格の取得を通じ、農業金融に関する知識・ノウハウの一層の充実を図り、多様化・専門化する農業者の金融ニーズに応えていくことを目的としています。

本会では、農業者の方に対し「農業メインバンク」としてより専門的・高度な農業金融サービスを提供するために、J Aと一体となった農業融資対応ならびに J Aの取組み等のサポートを行う農業金融センターを設置（平成 22 年 4 月）し、これらの機能の拡充・強化を図っています。

鳥取県の J Aグループでは、農業の担い手に対し J A・連合会の事業部門を横断した総合的なサポートを行うため、平成 28 年 2 月に中央会へ「J A県域農業サポートセンター」を設置し、取組を進めています。

(4) J A内事業間連携の強化

農業者の多様なニーズに J Aをあげて応えていくため、信用・営農・経済部門合同での定期会議の開催や農業者への同行訪問等により、これまで以上に J A内事業間連携を強化しています。

(5) 農業メインバンク C S 調査の実施と結果の活用

J Aバンクでは、J Aの農業融資に対する率直なご意見・ご感想をお伺いすることを目的として、お客様満足度の計測（農業メインバンク C S 調査）を行っています。

得られた結果を活用しながら、農業者の声により応えることが出来るよう、農業メインバンク機能の一層の強化に取り組んでいます。

2 担い手の経営のライフサイクルに応じた支援

J Aバンク鳥取は、担い手をサポートするため、経営のライフサイクルに応じて、次の取組みを行っています。

(1) 次世代農業者の育成支援

J Aバンク鳥取では、新規就農者の経営と生活をサポートするため、青年等就農資金を取り扱っています。

【新規就農者をサポートする資金の取扱い実績】 (単位：件、百万円)

資金名	平成 28 年度 実行件数	平成 28 年度 実行金額	平成 29 年 3 月末 残 高
青年等就農資金	29	96	240
就農支援資金	—	—	266
合計	29	96	506

平成 22 年度から、J Aバンクアグリ・エコサポート基金と連携した、J Aバンク新規就農応援事業を開始し、新規就農研修生の育成を行う農家等に対して費用助成しています（新規就農者研修支援事業）。さらに平成 27 年度からは、新たに農業を始められた新規就農者を対象とした新規就農者営農支援事業を開始し、多様な担い手を育成・支援しています。

【新規就農者をサポートする取組みの実績】 (単位：件、千円)

事業名	平成 28 年度 助成件数	平成 28 年度 助成金額
新規就農研修支援事業	17	1,580
新規就農者営農支援事業	68	13,600

(2) 農商工連携の推進

J Aバンク鳥取は、農林水産業の事業力・収益力強化のため、商談会・ビジネスマッチングによる販路拡大支援等の農商工連携に取り組んでおり、「農業者と産業界の架け橋」として、多様な機能を発揮しています。平成 28 年度には中国地方 5 県の J Aバンクと農林中央金庫主催による商談会を開催しました。

【平成 28 年度商談会等開催状況】

商談会名	開催日	主催 協賛	参加団体数
第 2 回食農 マッチングフェア	平成 28 年 9 月 26 日(月)	J Aバンク(中国地方) 農林中央金庫	69 団体 (出展団体)

(3) 被災者等への支援

J Aグループ鳥取では、平成 28 年夏季の台風・長雨および 10 月の鳥取県中部地震の被害を受けた農業者に向け、J A鳥取県中央会主導にて果樹等経営安定資金を発動するなど、担い手に対する経営支援に取り組んでいます。

また、本資金は J Aグループと行政が利子補給を実施することで無利息化を図り、43 件の利子補給を実施することで、農業者等の一層の負担軽減に向け支援しました。

(4) 経営不振農業者の経営改善支援

J Aバンク鳥取では、負債整理資金の対応にあたり、農業者の経営再建に向けて関係機関と協議を行いながら取り組んでいます。

【平成 28 年度の農業者の経営改善支援等の取組み実績】

(単位：先)

債務者区分	期初経営改善支援取組先 A			事業計画策定率 = a / A	ランクアップ率 = b / A	
	Aのうち期中に再生計画を策定した先数 a	Aのうち期末に債務者区分がランクアップした先数 b	Aのうち期末に債務者区分が変化しなかった先数 c			
正常先①	0	0		0		
要注意先	うち その他要注意先②	6	5	-	6	83.3%
	うち要管理先③	1	0	0	1	0.0%
破綻懸念先④	2	2	0	2	100.0%	
実質破綻先⑤	1	1	0	1	100.0%	
破綻先⑥	0	0	0	0	-	
小計(②～⑥の計)	10	8	0	10	80.0%	
合計	10	8	0	10	80.0%	

注) 期初経営改善支援取組先および債務者区分は平成 28 年 1 月末時点(県内 JA の事業年度末)でのものです。

3 経営の将来性を見極める融資手法を始め、担い手に適した資金供給手法の提供

J Aバンク鳥取では、担い手の経営実態やニーズに適した資金の提供に努めています。

(1) 資本供与の取組み (ファンドの活用)

J Aバンク鳥取では、農業振興や環境に貢献する取組みを行う企業に投資し、その成長を支援しています。

(2) 6次産業化の支援

本会は、平成 28 年 10 月に「鳥取県 J A 6 次産業化連絡会」の第 1 回委員会および平成 29 年 1 月に「平成 28 年度鳥取県 6 次産業化・地産地消推進協議会」に出席し、J Aグループ鳥取および行政機関との連携による 6 次産業化の推進に向けた情報等を収集しました。

(3) 負債整理資金による軽減支援

J Aバンク鳥取では、農業者の債務償還負担を軽減し、経営再建を支援するため、負債整理資金を取り扱っています。

【平成 28 年度負債整理資金の貸出実績】

(単位：件、百万円)

資金名	平成 28 年度 実行件数	平成 28 年度 実行金額	平成 29 年 3 月末 残高
農業負担軽減支援資金	0	0	46
畜産特別支援資金	0	0	247
合計	0	0	293

・農業負担軽減支援資金は、営農に必要な資金を借り受けたために生じた負債の借換えのための制度資金であり、J Aなどの融資機関において取り扱っています。

・畜産特別支援資金は、過去の負債の償還が困難な畜産経営者に対する長期・低利の借換資金であり、J Aなどの融資機関において取り扱っています。

(4) 動産担保融資の活用

J Aバンクでは、農畜産物や事業用車両、各種在庫など様々な動産を担保とした融資を行い、不動産担保・個人保証に過度に依存しない融資等への取組みを行っています。

鳥取県における融資の実績は次表のとおりです。

【動産担保融資活用実績】 (単位：件、百万円)

資金名	平成 29 年 3 月末	
	件数	残高
農産物	4	650
畜産物	1	83
合計	5	733

4 農山村等地域の情報集積を活用した持続可能な農山村等地域育成への貢献

J Aバンク鳥取では、地域社会へ貢献するため、次の取組みを行っています。

(1) J Aバンク食農教育応援事業の展開

J Aバンク鳥取は、地域の小学生の農業に対する理解を促進するため、J Aバンク食農教育応援事業を展開し、農業にかかる教材「農業とわたしたちの暮らし」の配布や農業体験学習の受入れ等に取組んでいます。

教材「農業とわたしたちの暮らし」は、J Aバンクを通じて、県下の全ての小学校を対象に6,202冊配布され、学校の授業等において活用されています。

また、県下J Aでは、下表のような食農教育などの実践活動に取り組んでいます。

【J Aバンク食農教育応援事業による活動内容】

J A名	活動名	活動内容
J A鳥取いなば	・子ども農業教室	小学生を対象とした農業体験学習（田植え・稲刈り、および食農教育等）。
J A鳥取中央	・あぐりキッズスクール	小学生を対象とした農業体験学習（野菜の植付け・収穫、田植え・稲刈り体験学習および食農教育）。
J A鳥取西部	・米フェスタ 2016 「おいしいお米づくりにトライ」 親子田植え体験 ・米フェスタ 2016 「おいしいお米づくりにトライ」 親子稲刈りウォッチング	小学生を対象とした農業体験学習（野菜の植付け・収穫、田植え・稲刈り、フォトコンテスト、食農教育等）。

J A鳥取西部	・第4期こどもあぐりスクール「みんなで農業にトライ」	小学生を対象とした農業体験学習（野菜の植付け・収穫、田植え・稲刈り、フォトコンテスト、食農教育等）。
県下3J A (J A鳥取県中央会主催)	・J A子どもフェスタ	県下の小・中学生を対象とした「わかば」作文・図画コンクールの表彰式、食農教育（「わかば」作文・図画コンクール入賞者、家族等を対象に192人が参加）。

以上